

平成30年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	小湊
全体計画		平成27年度		～	平成29年度		経費区分	—		内線	3645	
事務事業名		12602 すこやか相談事業										
所 属		300200 教育委員会事務局・子ども課										
施 策		02020900 子育て環境の充実										
予 算		会計		01 一般会計								
科 目		科目		030201 民生費・児童福祉費・児童福祉総務費								
事業		事業		070000 すこやか相談事業								
事業目的						事業概要・効果						
3歳児健診以後、小学校入学までの間の児童の発達の状況を早期に把握し、発達障がいと思われる児童とその保護者に対し、早期療育支援等子育て支援を的確に行うとともに、幼稚園・保育園へも支援を行い、児童の就学に向けて総合的な支援を行う。						平成18年度から子ども課に専任のコーディネータを配置し「すこやか相談事業」を実施。対象児童全員のアンケート調査（保護者・クラス担任）を基に各園を巡回する中で、個別に支援が必要な児童を早期発見し、療育教室へ繋げるなど早期支援を行う。併せてアンケートで児童の心配な点を上げてきた保護者全てに、スタッフから現在の児童の姿を伝えるなど保護者への支援も実施。小学校に入学後も個別配慮・支援、継続観察が必要と思われる児童については、小学校へ引き継ぐとともに巡回を実施。幼・保・小が連携し、一人ひとりの児童に寄り添い継続支援ができる。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
- 対象児童 420人 - アンケート回収率 保護者100% 保育士100% - 巡回 5歳児 63回、6歳児 61回、小1 12回 - すこやか教室 18回 - すこやか相談事業研修会 1回	- 対象児童 408人 - アンケート回収率 保護者100% 保育士100% - 巡回 5歳児 62回、6歳児 62回、小1 11回 - すこやか教室 19回 - すこやか相談事業研修会 1回
平成29年度 実績	平成30年度 予定
- 対象児童 414人 - アンケート回収率 保護者100% 保育士100% - 巡回 5歳児 57回、6歳児 58回、小1 11回 - すこやか教室 19回 - すこやか相談事業研修会 1回	発達アンケートの実施 巡回 5歳児、6歳児、小1 すこやか教室 すこやか相談事業研修会 1回
平成31年度 予定	平成32年度 予定
発達アンケートの実施 巡回 5歳児、6歳児、小1 すこやか教室 すこやか相談事業研修会 1回	発達アンケートの実施 巡回 5歳児、6歳児、小1 すこやか教室 すこやか相談事業研修会 1回

指標名	無し				
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成29年度 決 算	平成30年度 予 算
事業費		5,355	6,702
特 定 財 源	国庫支出金	1,882	2,116
	都道府県支出金	1,906	2,116
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		1,567	2,470
人員数 (人)	正規職員	0.0	0.8
	嘱託職員	2.0	2.2
	臨時職員	1.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	0.0	5,719.2
	嘱託職員	5,532.0	6,085.2
	臨時職員	1,179.0	0.0
	計	6,711.0	11,804.4
市民一人当たりの経費		0.2	0.4
総額		12,066.0	18,506.4

(単位：千円)

平成29年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	185	臨床心理士謝礼165、すこやか研修講師謝礼20
11節 需用費	32	すこやか教室教材費32
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	5,138	すこやか相談コーナー報酬2,586、保健師賃金1,858、郵便料等32

(単位：千円)

平成30年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	250	臨床心理士謝礼220、すこやか研修講師謝礼30
11節 需用費	30	すこやか教室教材費30
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	6,422	すこやか相談コーナー報酬5,519、郵便料等5

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	必要不可欠
評価コメント	発達障がい疑われる児童、支援が必要と思われる児童の早期発見、早期療育、早期支援により、児童の成長の促しと保護者支援を行うことでスムーズな就学につなげる。	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	大変有効
評価コメント	本事業の実施により、乳幼児健診（3歳児健診）終了後の児童の発達の見守りを保障し、幼保小が連携して切れ目のない支援を行うことができています。	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	変わらない
評価コメント	事業の性質上、専門資格のある職員の関わりが不可欠である。 28年度より、子ども・子育て支援交付金の利用者支援事業に位置づけ財源確保に努めた。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

幼保小のきめ細やかな連携により事業を行っている。幼保では公立と私立の温度差、学校では情報共有や連携において対応の違いがあるが、学校との連携については、学校教育課の指導主事、巡回教育相談員とも情報共有をしながら進めていく。

保護者支援についても、通園している園と連携しながら寄り添った支援を行う。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
子育て支援の核となる事業であり、幼・保・小が連携して児童一人ひとりに寄り添った支援を継続していく必要がある	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
子どもが減っても発達障害は減っていない。必要な子どもに早期に支援の手を差し伸べるために必要不可欠な事業。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	